

租税教育実践レポート

自分と税との関わりを考える

登米市立中田中学校教諭 3学年 木村 伸

実施年月日：令和 2年12月 1日 32名

1 実践計画・指導のねらい

「自分と税との関わりを考える」ために、授業では、「政府の役割と国民福祉」の単元で重点的に扱う予定である。中学校社会科の学習指導要領では、公民的分野の内容（イ）にあたり、国民生活と福祉の向上を図るために国や地方公共団体が果たしている役割を考えさせることを通して、経済についての見方や考え方の基礎を養うことを、主なねらいとしている。生徒が公民学習の中で自分と税との関わりに気づき、正しい知識や理解を深めること、将来の納税者としての自覚と考えをしっかりともてるように指導していきたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、こどもたちの反応（●）、使用教材等（□）
事前学習	・税の作文を書いてみよう。	○ <u>身近には、どのような税があるだろう。</u> ● 消費税，所得税，自動車税，関税，固定資産税など。 ○ <u>どのようなことに使われているのだろう。</u> ● 学校，道路，橋，政治，公務員，空港，年金，保険料など。 □ 「私たちの暮らしと税」（宮城県租税教育推進協議会）
1	政府の役割と国民福祉 ・私たちの生活と財政 ・政府の役割と財政の課題	○ <u>税金はどのように集められ、使われているのか。</u> ● 直接税・間接税，国税・地方税，累進課税，公共事業，自分たちの義務教育費など。 ○ <u>日本の財政について考えよう。</u> ● 日本の財政は，予算に占める社会保障費，国債・地方債の増加などが課題になってきている。 □ 教科書，デジタル教科書
2	・社会保障の仕組み ・少子高齢化と財政	○ <u>日本の社会保障はどのように行われているか。</u> ● 年金・医療・子育て支援など。 ○ <u>日本の将来の社会保障について考えよう。</u> ● 今後日本が「高福祉高負担」「低福祉低負担」の社会のどちらに進むべきかを，多面的・多角的に理由を考えて説明させた。 (高福祉高負担と考える生徒が多かった。：安心して暮らせる，みんなで頑張る，支え合うなど) □ 教科書，デジタル教科書
3	・租税教室	○ <u>税について知ろう。</u> ● 税についての現状や詳細な内容を学んだ。また，実物の1億円のケースを持ってみる。(1億円の重さや大きさが実感できた) □ 1億円のケース，資料（県税事務所準備），プロジェクターDVDプレイヤー

【指導のポイント】<事前学習>

夏休みの期間が短くなったため，7月下旬に各クラスで税の作文の指導を行った。税務署からいただいた資料を基に，税金が自分たちの身近なところでも役立っていることを気づかせる。また，税の作文を書く際も自分の身近な生活の中での話題や疑問を取り上げて書くように指導した。(例年，夏休みの課題)

【指導のポイント】<1・2時間目>

身近な税金である消費税や軽減税率で自分たちが買い物をする時に持ち帰り店内飲食で税金が違うことについて，取り上げて考えさせる。

【指導のポイント】<3・4時間目>

歴史的に社会保障が認められていった経緯を踏まえ，現在は，社会保障の4つの柱を基に，国民の権利を守っていることに気づかせる。

【指導のポイント】<5時間目>

県税事務所の職員の方に，分かりやすく税について説明をしていただいた。実際の1億円のケースを持ち，また，DVDを視聴して税金の大切さを理解することができた。

3 実践の成果(◎)と課題(◆)

- ◎ 税務署・県税事務所などの外部機関の方々は，とても積極的でその姿勢が生徒にも伝わり，将来，税務署や県税事務所働くにはどうしたらいいのか等を聞き，興味を持つ生徒が多かった。(最新の資料を用いて説明をしている。)
- ◎ 現在の日本の財政が，具体的にどのような課題があり，自分たちがそのために何ができるかを考えるきっかけになった。
- ◎ 税の作文を書くために，家庭内で身近な税の会話や質問などがあり，作文の内容に反映されている生徒が多数いた。
- ◆ 今年度は，新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校で，考える場や資料活用場の設定が思うようにできなかった。(もう少し深い内容まで実施できなかった)
- ◆ 税の作文(8月)と租税教室(12月)までに実施時期の間隔があるので，社会科の年間指導計画との関連も見直し，連続して集中して実施できるような構成にしていきたい。